

迷子の弁当屋

岡本 悠

立花は憤慨した

「あの子、今日、いねえ じゃねえか！」

パトカーが、走っていた

俺を、逮捕するためじゃない

ただ 信号の前で、止まっていた

俺の、勘違いか？

あの子、俺を待ち伏せしてたかと思って

今日は、いるかな？ と思ったら

カケラもねえ

神も、随分の、神芝居だな

立花は、家に帰ると、サッサとゴミを捨てて、ぬいぐるみを抱いて、笑った

家の前には、不審な男が立っていた

今日は、あの子に逢ったら、と思って

少し、オシャレな服にしたのに

なんの意味もなかった

弁当屋には

いつも通り、藤沢さんがいて、

今日は、名取さんもいた

窓から、外を眺める

あの子、いねえな

大方、ゴールデンウィーク明けというのも関係ない

神に、また、騙された

でも、怒る気にもならない

弁当屋で、おにぎりと、イカセット、ナポリタンをかうと

サッサと、店を出た

彩りを飾るものは何もない

同じような毎日を繰り返す

藤沢さんは、年配だから、俺を客としか見ていない

でも、名取さんは、俺を男として見ているかも...

そんな、淡い期待を抱くのが、限度だった

俺、これから、どうやって生きていけばいいの？

結婚以外は、すべて敵

野球も、サッカーも、プロレスも...

どうでもいい

神はいつ答えを提示してくれるのだろうか？

でも 叶ったら叶ったで...いや、面白そうだな

バーにも、もう行く気はない

俺、これから、どうやって生きていけばいいの？

どんなに、強がった小説を書いたところで、

結婚してなきゃ、せめてガールフレンドがいなきゃ、

説得力もクソもない

負け犬の遠吠えだ

締め切りも迫っている

それまでに、せめてガールフレンドがいないと、

俺、なんなんだ、ってことになる

挙句の果てに、落選したなら、

もう 俺には何もない

そういった敗北の人生だけが

たちのぼる

やめた仕事場で働いていた

白鳥さんも

おなじように、弁当屋で働いていたんだな

ああ ああ ...

文子の言葉を借りれば

女から告白するなんてことはない

だから、弁当屋の女性から告白されることもないだろう

そして、告白でもしたら、

また、不審者扱いがオチだ

もう 着地地点がない

心は、モヤモヤしている

ただ 俺にあるのは、こういう自分のことをストーリーにした物語を書けたという点においてだ

それ以外の、神の言葉を借りた、文論には、何の根拠もない

あんなものは、出すのはやめよう

こっちの小説だけで勝負しよう

せめて、そんなことだけは浮かんだ

ぬいぐるみ、を、愛して生きるのは

今もできるし、最後までもいい

どうしても、俺には、彼女ができない

なぜだろう？

俺には、なんか悪いところでもあるのか？

愛しても駄目だし、

愛されようとしても駄目

神に委ねても駄目

気が早すぎるのだろうか？

たぶんそうだ、忍耐力がないんだ

そんなことを言ってる間にも、歳を取るし、

今の状況も変わらないだろう

神が、今日、俺を騙した代わりにくれたプレゼントは、

この小説が書けたことだ

それだけでも、勝利とは言えないだろうか？

仕事場なんて、やめた

夜遊びなんて、やめた

神は、男なら、ガールフレンドの1人や2人、作れと言った

でも、俺にはできない

これが、現実だ

さして、美人な子や、綺麗な子、かわいい子が相手なら、

いつまでも、飽きないかもしれないが、

興味のない子だと、何をしても飽きてしまう

よって、そういういい子は、ライバルたちにとられることにより

行き場なし

でも、神が、もう立花は、バーに行く必要はない、と言ったんだ

忠実な僕の俺は、バーには行かない

飯に行けても、もう、何もない

行きたくないんだ

小説はあらゆる蓋然性をもって

失敗するであろう

でも、この生き方しかないとしたら...

しょうがない

女を思わないで、生活できる日もあるんだ

そういう日に、懸けてみようか？

凄い、空しい努力だけど...

俺には、ルールができちゃってる、

マッチングアプリや、出会い系、ナンパ...

それから、去年のひとみ、みたいに、風俗嬢を愛するのも、やめた



まだ、ガールズバーや、キャバクラの子には、ルールはないけど、

まあ、バーに行かないなら、それらも同じ運命を辿る

だから、出会いがない

とにかく、1人で野球場でも繰り出すか？

プロレス会場でもいい？

何が起きるかは、わからない

神なら、なんと答えるだろう

必要ない、と言ってくれ

結局、俺、楽しんで彼女を得ただけなんだな

そういう結論に至った

皆、俺が知らないだけで、血みどろの努力をしているんだ

でも、俺だって、努力したんだぜ、少なくとも、ここ1年以上は...

泣き犬の遠吠えか？

もう1回、ぬいぐるみ、を、愛して、初めからやり直そう

そしたら、ポッカリ答えはでるかも？

ああ 空しいな

ああ 空しいな

わかったのは、そうだ、文子が言っていた通りだよ

男は、狩りに出ないといけない、女が欲しいのであれば

当たり前のように、失敗の恐怖はあるよ、フラレルとか、不審者扱いとか...

定まってないんだよ、自分がどうしたいのか？

結婚したいのか、今のままでいいのか？

その前に、小説で成功して、金を稼がないといけない

こっちはまだ、フラレテも、不審者扱いはないな

どんなにフラレテも、そんなに傷つかないし、

長瀬剛も言ってた、

「君が愛にしがみつくとより、まずは君が強くなれ」

父も同じことを言っていたな

それが、男か、人間の定理だ

そうか、順番が逆だったんだな

まずは、小説で成功して、お金を稼げて立派になれば

絶対に、自信もつくし、モテルという原理に気づいた

そうか、そういうことだったんだな、

小虫を叩き殺した

「完」